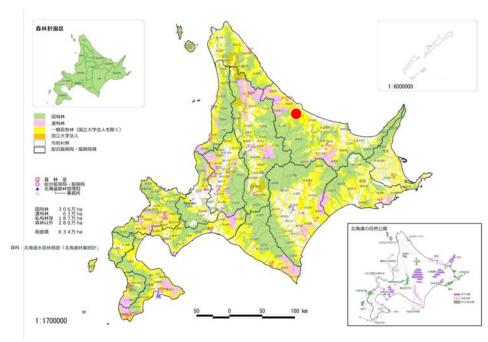
海外製林業機械の運用と現状

内容

- 1. 佐藤木材工業株式会社概要
- 2.当社の事業(林業)
- 3. 海外製林業機械
- 4.海外製林業機械導入のメリットと現状
- 5. 今後の海外製林業機械の導入計画
- 6. 海外製林業機械導入における規制上の問題点と現状
- 7. 規制改革にもとめること
- 8. 海外の林業機械の公道通行

佐藤木材工業株式会社 常務取締役 佐藤健右

1. 佐藤木材工業株式会社概要



出所:北海道水産林務部 所管別森林分布図

本社所在地:北海道紋別市上渚滑町4-1

昭和7年 下駄工場として創業

昭和35年 佐藤木材工業株式会社と社名変更

昭和42年 本社工場で割箸生産開始

現在の事業

・林業(昭和30年~)

造林、造材、丸太販売

・製材工場(昭和43年~)

桟木、梱包材、集成材ラミナ

・集成材工場(平成11年~)

構造用集成材、羽柄材

・チップ加工(昭和29年~)

製紙用、燃料用

・割箸販売(昭和42年~)

輸入、国内販売

2. 当社の事業(林業)

素材生産 請負、立木公売、自社有林

造林 地拵、植付、下刈、除伐・枝打

対象山林 国有林、北海道有林、自社有林

問題点

- ・平均年齢が高い(若者が集まりにくい)
- ・危険度が高い(事故率が全産業の10倍以上)
- ・気の利いた人間の勘と経験よる作業



海外製林業機械導入

- ・ドイツWelte社コンビマシン導入(2009.2)・・・3台
- ・フィンランドPonsse社ハーベスター導入(2011.2)
- ・フィンランドPonsse社フォワーダ導入(2011.8)
- ・フィンランドPonsse社ハーベスター導入(2号機)(2012.7)
- ※ 重機45台(日本製含む)保有

3. 海外製林業機械

ドイツWelte社 コンビマシン W130K



クラムバンクスキッダ仕様

フォワーダ仕様

フィンランドPonsse社林業機械



ハーベスタ BEAVER



フォワーダ GAZELLE

4. 海外製林業機械導入のメリットと現状

海外製林業機械 林業専用機として開発



国産機

建設機械にアタッチメント取り付け ※アタッチメントは海外製あり



導入の効果 作業能率・安全性の向上 伐採量の増加に対応 機械見学者の受入れ → 海外製林業機械の普及

海外製林業機械の普及 ※現在までPONSSEマシン12台が国内導入

5. 今後の海外製林業機械の導入計画

背景

- ・間伐の進んだ林分の大径化
- ・伐採量の増加(計画、需要)
- ・安全性の向上



現状

- ・小中径木向け(間伐中心)の機械仕様※伐採能力、運搬能力
- ・林業労働力の縮小、高齢化



大型の林業専用機導入の必要性

R4導入計画

- ・ドイツWelte社コンビマシン(W210K)
- ・フィンランドPonsse社八一ベスター(ERGO)
- ・フィンランドPonsse社フォワーダ(WISENT)

6. 海外製林業機械導入における規制上の問題点と現状

作業現場移動における機械運搬・公道走行

特殊車両通行許可(開発局)

高さ3.8m超で申請、 4.3mを超えると 現地調査確認書添付 (R3.3までは4.5m)



現地調査確認書作成において どこをどれだけ調査すれば よいのかが不明確 例)トンネル、標識、電線など

制限外積載許可(警察)

高さ3.8m超で申請、 最大高さ4.3m



4.3mを超えるものは通行不可能。 ただし個別協議の事例あり?

小型特殊自動車(市町村)

実質農業機械のみ



林業機械前例なし(紋別市) 大型農業機械が国道等を通行

※ 当社の海外製林業機械の運搬は外部委託

7. 規制改革にもとめること

特殊車両通行許可(開発局)

高さ3.8m超で申請、 4.3mを超えると 現地調査確認書添付 (R3.3までは4.5m)

制限外積載許可(警察)

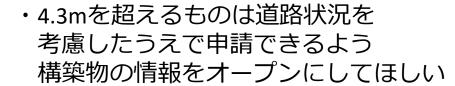
高さ3.8m超で申請、 最大高さ4.3m

小型特殊自動車(市町村)

実質農業機械のみ



・最大限の高さを4.8m程度まで緩和



・林業・農業地域の一般的な道路状況は 市街地と違うことを考慮した基準を設定し 監督機関によらず基準統一してほしい

枠組みを林業機械に広げてほしい

8. 海外の林業機械の公道通行

PONSSEマシンのドイツのおける公道通行



ハーベスタ (ERGO)



ハーベスタ (スコーピオン)